

さっぽろ  
市議団ニュース

<第1回定例会>

2017年3月30日

No. 179

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221/fax 218-5124

## 子どもの貧困対策——6割が「家計が厳しい」と回答 学校給食費の無償化など、迅速な対策を！

伊藤りち子議員が質問

日本共産党の伊藤りち子議員は24日、予算特別委員会で子どもの貧困対策について質問しました。

伊藤議員は、「仮称）子ども貧困対策計画」策定に向けた実態調査の中間報告で、「2歳から高校2年生までの子どもを持つ世帯6割が『家計が厳しい』と回答。また、『過去1年間に子どもの受診をさせなかった』が1,068人、18.3%との結果をどう受け止めているか」「対策計画を1年近くかけて策定するが、中間報告でも厳しい生活実態が明らかとなり迅速な対策が求められる。就学援助、無料低額診療、生活保護など支援が届く対策をただちに講じるべき」とただしました。

岡部子ども育成部長は、「困窮する子育て世帯が少なからず存在することが示された。受診率についても厳しい実態が反映されている」とのべ、支援に必要な情報を届けることが課題としました。

伊藤議員は、「貧困は、他人とのつながりを失っていくことで見えなくなり孤立を招く」「今回の調査からこぼれている貧困世帯や子どもたちの実態をどうつかむのか、今後も追跡調査を実施していくべき」と強調し、そのためにも「小中学校との連携が必要ではないか」「すべての子どもたちが対象となる学校給食費の無償化は、極めて有効と考えるがどうか」とただしました。

岡部部長は、「困難を抱えた方は社会から孤立しがちであり、学校との連携は必要」「給食費の無償化は事業部局が判断すべき」と答弁。伊藤議員は、給食費無償化について、町田副市長が「子どもの貧困は非常に大きな問題」「検討していきたい」とのべたと指摘し、「担当部局が違うと縦割りの考え方ではなく、貧困対策計画を策定する部局として検討すべき」と求めました。

## 老朽化した箱型ごみステーション対策——修繕や更新、折りたたみ式も助成対象、市民に周知を！

村上ひとし議員が質問

日本共産党の村上ひとし議員は27日、予算特別委員会で老朽化した箱型ごみステーションについて質問しました。

マンションなど共同住宅の敷地内に設置する箱型ごみステーションへの助成は、2008年に党市議団が求め、翌2009年に設置費用などへの助成制度がスタートしました。

村上議員は、「箱型ごみステーションが広がっているが、設置状況の推移や効果はどうか」と質問。新津清掃事業担当部長は、「箱型以外も含むが、助成がはじまる平成20年度は10,815カ所だったが今年2月末時点では24,748カ所と約2倍に増加し、折りたたむ手間がかからずカラス被害もうけにくいという効果がある。設置の助成件数は現在までで約7500件」とのべました。

村上議員が「経年劣化などで破損し、カラスがゴミを散乱させる事態も増えている。修繕や更新も助成対象になっている旨を、ごみパト隊などが積極的に働きかけていくべきではないか」とたずすと、新津部長は、「不動産関係団体にも情報提供するなど、助成制度の周知を図っていきたい」と答弁。村上議員は、「歩道上にも設置可能な折りたたみ式の箱型ごみステーションがあり、助成対象となっている」として、周知をはかり戸建住宅地のごみステーションの環境改善をはかるよう求めました。